

職業従事者を理想的な姿に見せる衛生マスクの色に関する研究 —看護師・政治家・サッカー選手を例として—

長崎県立大学 情報システム学部 情報システム学科 BS118021 辻綾乃

1 まえがき

近年の世界的な新型コロナウイルス感染症の影響により、外出時に衛生マスク(以下、マスク)を着用することが推奨され、日常的な着用が当たり前になった。着用するマスクの色は、人の印象や顔の魅力の知覚に影響する[1]。人が身に着ける物の色が人の印象や魅力に影響を与えるのならば、それらの色を取り入れることで自分や相手が理想とする自分自身の印象を作り出すことが出来るのではないだろうか。

本研究では3つの職業に注目し、その職業従事者を最も理想的な姿に見せるマスクの色について研究を行った。本研究で扱った職業は、女性看護師、男性政治家、男性サッカー選手である。

2 予備実験

2.1 アンケート調査

3つの職業従事者それぞれの理想的な姿について調査するために予備実験を行った。予備実験は井上らの研究(1985)[2]を参考に58語の形容詞対を用いたSD法によるアンケートを大学生50名を対象に行った。

2.2 アンケート結果

予備実験より求められた印象の強い形容詞上位29個を主観的判断により4つの要素に分類し、各要素に適した名称をつけた。

女性看護師は「清潔感」、「誠実性」、「明朗性」、「活動性」の4要素とする。男性政治家は「力強さ」、「活動性」、「誠実性」、「冷静さ」の4要素とする。男性サッカー選手は「力強さ」、「親近感」、「評価性」、「活動性」の4要素とする。

3 本実験

本実験では、予備調査から得られた各職業の従事

者の理想像の特徴に合致しそうな色を求め、それらの色のマスク画像を制作し、どの色のマスクが最もその職業従事者を理想的な姿に見せるかを検証した。

3.1 色の適用

各職業に対して4つの要素のイメージに合致しそうな色をそれぞれに当てはめる。色を当てはめるにあたり、『事典 色彩自由自在』[3]、『色の事典 色彩の基礎・配色・使い方』[4]、榊原らの研究(2018)[5]を参考にし、原色を当てはめた。当てはめた色を以下に示す。

○女性看護師

「清潔感」：白色、「誠実性」：青色、「明朗性」：ピンク色、「活動性」：黄色

○男性政治家

「力強さ」：赤色、「活動性」：黄色、「誠実性」：青色、「冷静さ」：グレー色

○男性サッカー選手

「力強さ」：赤色、「親近感」：オレンジ色、「評価性」：紫色、「活動性」：黄色

3.2 画像制作

各職業の従事者の理想像の特徴に合致しそうな色を用いて作成した顔画像を図1から図3に示す。

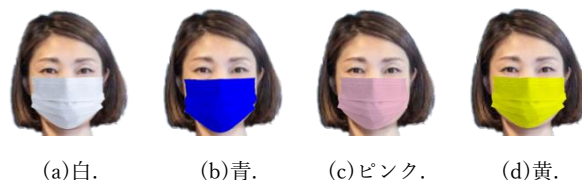


図1 女性看護師のマスク着用画像。

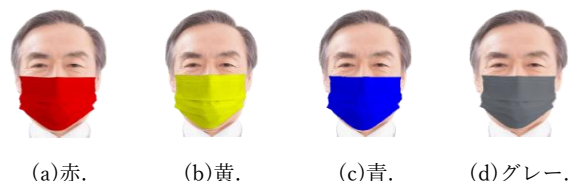


図2 男性政治家のマスク着用画像。



図3 男性サッカー選手のマスク着用画像。

3.3 アンケート調査

本実験では3つの職業従事者それぞれにおいて、4つの画像のうちどれが最も理想的な姿か、についてアンケート調査を行った。被験者は大学生21名である。

4 実験結果

図4に女性看護師についての結果を示す。「清潔感」を表す白色マスクを選んだ人が最も多く17人であった。

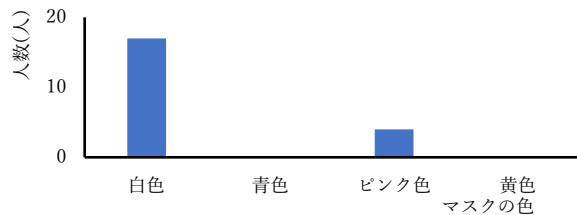


図4 女性看護師についての結果。

図5に男性政治家についての結果を示す。「冷静さ」を表すグレー色マスクを選んだ人が最も多く18人であった。

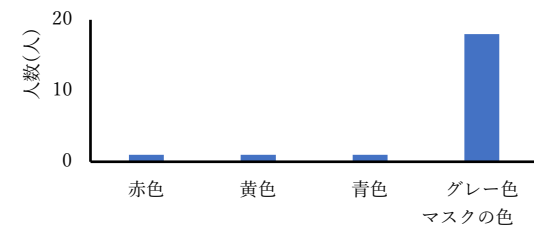


図5 男性政治家についての結果。

図6に男性サッカー選手についての結果を示す。「力強さ」を表す赤色マスクを選んだ人が最も多く8人であった。

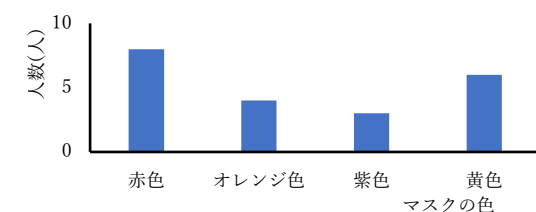


図6 男性サッカー選手についての結果。

5 考察

本実験より、各職業の従事者を最も理想的な姿に見せるマスクの色を求めることが出来た。

女性看護師には白色マスクが最も適しているという結果になった。これは予備実験より、最も印象の強かった「清潔な」という要素を表していると考えられる。男性政治家にはグレー色マスクが最も適しているという結果になった。若松(2016)の著書より、グレー色は白も黒も含みバランスの取れている色であり、すべてを許容する大人な色だというイメージがある。このイメージと政治家の理想の姿である「冷静さ」が大きく関わっていると考えられる。男性サッカー選手には赤色マスクが最も適しているという結果になった。これは予備実験より、最も印象の強かった「強い」という要素を表していると思われる。

6 あとがき

本研究では女性看護師、男性政治家、男性サッカー選手を例に、職業従事者を最も理想的な姿に見せる衛生マスクの色についての研究を行った。実験の結果、各職業の従事者を最も理想的な姿に見せるマスクの色を求めることが出来た。

本研究ではマスクの色には原色を用いたが、色の明度や彩度を変えることによっても印象は変わると思われる。これについては今後の課題としたい。

参考文献

- [1]宮崎由樹、佐藤史織、川原純一郎、顔の魅力に及ぼす衛生マスクの効果、日本心理学会大会発表論文集、2014.
- [2]井上正明、小林利宣、日本におけるSD法による研究分野とその形容詞対尺度構成の概観、教育心理学研究、pp253-260、1985.
- [3]末永蒼生、1994、『事典 色彩自由自在』、株式会社晶文社.
- [4]若松和紀、2012、『色の事典 色彩の基礎・配色・使い方』、株式会社西東社.
- [5]榎原理愛、千野直仁、色彩と感情語との関連についての一研究—性差の視点から—、愛知学院大学論議.心身科学部紀要、pp33-40、2018.